

ダイオキシン類対策に係るプラスチック業界の取組みについて

1.ダイオキシン類不安と塩化ビニルを巡る経緯概況

ダイオキシン類は、炭素、水素、酸素、塩素から成る有害な化学物質です。

そのため、塩素を含むプラスチックである塩化ビニール(以下「塩ビ」)の焼却がダイオキシン類発生の要因として指摘されました。

経緯概況

年 代	内 容
1980年代	ドイツでは、ダイオキシン類の発生源として都市ごみ焼却炉の塩ビが疑われていた。
1980年代後半	各国で塩ビ使用規制が行われた。
1980年代後半～ 1990年代	塩ビの焼却とダイオキシン類の発生について調査・研究が行われ、ダイオキシン類の発生抑制のためには、適切な焼却管理が重要であるとの報告が相次いだ。 さらに、プラスチックリサイクルの取組みが活発化した。
1990年代	塩ビの使用を規制していた各国が相次いで規制を解除した。

2.プラスチック製造業界の取組み

塩ビには塩素原子が含まれることから、1990年代頃にヨーロッパの環境団体などから焼却処分時のダイオキシンの発生など環境負荷を懸念する声があがりました。

これに呼応して、塩素原子が含まれないポリエチレン*やポリメチルペンテン*などを使用したラッピングフィルムなどの競合製品が登場しました。

* ポリエチレン：略称PE。密度が小さく、耐水性、耐薬品性、耐寒性、適度な柔軟性、成型加工性や熱安定性に優れている。

主な用途：ラップフィルム、農業用フィルム、シャンプー容器、バケツ など

* ポリメチルペンテン：略称PMP。耐熱性、透明性、離型性、ガス透過性に優れ、射出整形、および押出成形に対応が可能。

主な用途：ラップフィルム、化粧品容器、実験容器 など